

シャローム横浜通信 9月号



平和への誓い

日中の暑さが厳しい今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。8月6日、80回目の原爆の日、広島市の平和記念式典で小学生2人が「平和への誓い」を読み上げました。その一人、佐々木駿さんは、幼いころから原爆の事実を学び、被爆者の曾祖母の思いを胸に、平和公園で海外観光客へのボランティアガイドを続けています。

「こども代表である佐々木駿さんと関口千恵璃さんが読み上げた『平和への誓い』をご紹介します。」

「たとえ一つの声でも、真実に心を込めて語れば、世界に変化をもたらすことができます。」

いつか被爆者がいなくなる世界が訪れます。同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。原子爆弾が投下されたあの日のことを思い浮かべたことはありませんか。

昭和20年、1945年8月6日午前8時15分、この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。誰なのか分からないほど皮膚がただれた人々、涙とともに止まらない絶望の声。一発の原子爆弾が多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年が経った今、辛くて思い出

したくない記憶を語ってくださいる被爆者の方々から直接話を聞く機会は少なくなっています。どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として、声として、次の世代へ語り継いでいく使命が私たちにはあります。

(中略)

周囲の人々のために、ほんの少し行動すること。それがやがて世界の平和につながるのではないのでしょうか。

『One Voice.』

たとえ一つの声でも、学んだ事実を思いを込めて伝えれば、変化を生むことができるはずです。

大人だけでなく、子どもである私たちにも平和のためにできることがあります。あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を二度と繰り返さないために、私たちは被爆者の思いを語り継ぎ、一人ひとりの声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

「シャローム」はヘブライ語で『平和』を意味します。この文章を通じて、私たちが平和のために何ができるかを考えるきっかけとしていただければ幸いです。

皆様のご健康と、日々の平穏をお祈り申し上げます。

施設長 高原 信夫

共に助け合う精神

7月15日、3階のフロアでは17名の入居者様が参議院議員総選挙の投票を行いました。

参加者の皆様は、それぞれの思いを胸に、真剣な表情で投票に臨まれており、ご自身の意見を大切にされる姿が印象的でした。投票を通じて、地域の未来や社会の動きに関心を寄せる姿勢がうかがえ、その一票には、皆様の願いや想いが込められているように感じました。



選挙は、私達の生活に深く関わる重要なイベントであり、入居者様の積極的な参加は、安心して暮らせる社会を築く為の力強い一歩となります。今後も地域とのつながりを大切にし、意義ある時間を共有していきたいと思えます。

3階副主任 ズルハム リトンガ

第301号

令和6年8月15日発行

(毎月1回15日発行)

責任者:施設長 高原 信夫

〒241-0802

横浜市旭区上川井町 1988

社会福祉法人アドベントスト福祉会

シャローム横浜

☎045-922-7333

編集委員 荒金・石川・石橋

[https://www.adventist-](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)

[welfare.jp/yokohama/](https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/)



シャローム横浜のリハビリについて

日頃より当施設の運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当施設では、ご利用者が現在できることをできる限り維持し、日々の生活を元気にお過ごしいただけるよう、機能訓練を通じたサポートを行っております。その取り組みの一環として、ご利用者の身体状況に応じた福祉用具（靴やクッション等）の選定・見直しも行っております。

これらの用具に劣化やへたりが見られた場合には、できるだけお体への負担を軽減できるよう、新しいものへの交換をご提案させていただく場合がございます。その際には、ご家族にもご相談させていただくことがございますので、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



機能訓練指導員 山中 真



あ ん み つ 屋 台

8月3日は、栄養課主催の行事として、あんみつ屋台が開かれました。8月に入り益々、猛暑が続き、当日も36度の気温でした。入居者の皆さんも、暑いで冷たいあんみつを美味しく召し上がっていました。

今回のあんみつの中身は、抹茶寒天、錦玉羹、あんこ、アイス、白桃、みかん、さくらんぼなどです。9月の栄養課主催行事は、屋台でピザが提供されます。

皆様、来月もお楽しみに！

栄養課課長 小寺 秀偉



白 髪 (し ら が) は 栄 え の 冠

第209回 チャプレン 上前 至

厚労省が7月に昨年の平均寿命を発表した。それによると女性は87歳、男性は約82歳で、女性は40年連続で世界一、男性は6位である。平均寿命とはその年に生まれた0歳の子供があと何年生きるかを予測した数値であり、1955年には男女とも60歳代であったが、その後、女性は84年に男性は2013年に80歳を超えた。嬉しい数字である。一方、それとは別に健康寿命というものも発表された。それによると女性は76歳、男性は73歳である。ということは、それぞれ約10年の不健康な期間があるという事である。福祉事業の働きは、できるだけこの不健康な期間を少なくし、幸せに生きていただけるよう、お助けしていく事の一つの目標があるであろう。

しかし、ここで覚えない事は寿命という、いわば人生の量 (Quantity) だけではなく、どのように貴方は生きたかという人生の質 (Quality) への

問いかけも大切な要素であるという事である。でなければ若くして逝ったが大きな業績を残していた人達が浮かばれないであろう。例えばアーノルド・トインビー (1852-1883) は31歳で逝ったが彼は経済学者として産業革命 (Industrial Revolution) という言葉を残し、何よりも近代社会福祉事業の先駆者としてセツルメント運動 (スラムで生活し、それが故に若くして病没) を起こした。そこから今日の社会保障制度設立への起爆者となっていった。それを思えば彼ほど人生において大切な事はただ生きる量ではなく、どのように生きたかという質も大切なものであることを教えられるのである。

「白髪(しらが)は栄えの冠である。正しく生きることによってそれが得られる」箴言 16:31)

